

# 角田市議会議員 黒須とおる 後援会だより 第4号

平成30年5月10日発行 黒須貴後援会事務局 Tel.0224-62-0241 後援会内部討議資料

## 2月定例会で補正予算、30年度予算を可決しました

補正予算で、「人・農地プラン推進事業」が減額されました。補助金の申請件数が少なかったことによります。農地集積・集約化がおちついてきたと言えますが、一方、新しく農業を始めようとする人が増えていない現状は、新年度の大きな課題だと考えます。

新年度予算では、賑わいの交流拠点施設「道の駅」予算が継続して計上されました。9月には新会社が設立予定、出荷希望者も170人を越えて来ました。不安要因を解消し、市民が納得できる事業になるよう、注視し、はたらきかけて行きます。

子どもの心のケアハウスが設置されます。不登校児童・生徒の自立、自発的な学校復帰を促す事業として期待されます。

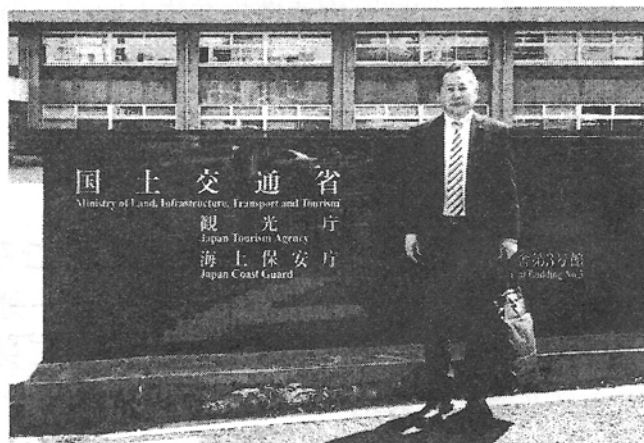
詳しくは「広報かくだ」および「議会だより」の関連記事をご覧ください。

### 〈報告 黒須とおるが活動してきたこと〉

#### ①常の活動など

##### ・関係省に要望活動を行いました

3月28・29日の日程で、志政クラブ・市民クラブ・有志議員で、農林水産省と国土交通省を訪ね、要望活動を行いました。地元出身の国会議員や職員の方々と、貴重な意見交換ができました。議員が直接このような活動をするのは角田市では初めてのことでそうです。ちなみに白石市などでは毎年行っているそうです。強く感じたのは、国の機関にパイプを作っておくことの大切さです。直接会えばつながりができ、地方には届かない情報が得られます。今後、定期的に訪問するつもりです。国土省へ要望：阿武隈川堤防整備、R349整備、白石-角田-山元高規格道路整備、下水道整備関係交付金等 農水省へ要望：江尻排水機場整備促進、道の駅整備への支援等



農事組合法人館島田生産組合さんのネギまつり (29.11/18・19) のお手伝いをさせていただきました。詰め放題が大人気！ 今年度はネギの生産を倍増するそうです。

##### ・イノシシにつよい作物探し

道の駅直売施設出荷物もからめて、特に中山間地でイノシシなどの獣害を受けずに作付けできるものはないか検討しています。今のところトウガラシが有効で、販路も確保できることから、協力者を募り、作付けを試みることにしています。

里山の環境保全と、森林事業の活性化の一助とすべく、宮城県「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」(森林・山村多面的機能交付金)を申請しています。

・台風 21 号 (10/23) <sup>ひがいたいさく ほんそう</sup>被害対策に奔走しました。  
23 日未明の消防出動から、現在の被害復旧まで、  
区長さんや市当局、地元議員などと協力し、対応  
に当たっています。ちなみに、今回初めて、半田川  
堤防において水坊工法のひとつ「月の輪工法」を  
行いました。

藤尾地区の半田川が増水し、下山地区が孤立しました →



## ②質疑、一般質問など

### 仙南医療圏における地域医療構想について (12 月)

人口が減る中で福祉を支えるには、地域の医療機関と福祉機関が連携してサービスを提供する社会（地域包括ケア社会）をつくる必要があります。そのために、県は仙南地区をひとつの範囲として医療構想を定めました。構想を実現するために角田市がやるべきことを問いました。まず、みやぎ県南中核病院と刈田総合病院のすみやかな連携を促すよう申し入れました。また、不足する医師や看護師を、医療圏内の病院や介護施設で適正に配置できる、「地域医療連携推進法人制度」の導入を促すよう進言しました。さらに、良い地域包括ケア社会をつくり、仙南医療圏をブランド化し、医療による地方創生につなげることを提案しました。

### ごみ問題等に関する条例について (3 月)

道ばたへのポイ捨てが横行するなど「ごみ問題」がいつこうに無くなりません。市や業者の責任だけでなく、市民（市を訪れる人、通行する人も含む）のさらなる理解、協力、責任ある行動が必要です。そこで、より市民に身近に認識していただける、ごみ問題等に関する条例の制定を提案しました。結果、同意を得たので、担当課と教育厚生常任委員会で協議していくことになりました。

### 行政区長のあり方について (3 月)

区長になり手がいない状況は、自治組織の抱える問題の一角であると考え、自治組織のあり方について問いました。平成 30・31 年度に、区長のあり方、ひいては、協働によるまちづくりや地域振興協議会を含む、地域自治組織のあり方を見直すとの返答でした。「今後地域の自治組織を強化していくことなしに、角田市の自治体運営はもう難しい局面に来ている」との答弁は印象的でした。

### 〈課題 黒須とおるが今取り組んでいること〉

今年度に幼児保育施設のあり方、同じく今年度から小中学校の適正規模・適正配置の検討がなされます。急激な人口減少（角田市人口が 2040 年には約 2 万人減る予測）を受けてのことです。子どもの教育環境と、地域の未来を、併せて考えなくてはならない、非常に難しい問題です。安易な施設の統廃合という結果にならないよう、地域住民の皆さんと共に、地域の重要な課題として考えて行きます。